2022 年度

# 環境経営レポート

**（2022 年 11 月～2023 年 10 月）**

**作成:2023 年 12 月 8 日**
**改訂:2024 年 7 月 22 日**
**再改訂:2024 年 8 月 5 日**

株式会社　谷田部銘板製作所

# 株式会社　谷田部銘板製作所　環境経営方針

## 1. 企業理念

（株）谷田部銘板製作所は、社会の一員として、環境・安全・健康の確保が経営の基盤であることを認識し、「持続可能な製造」の原則のもとに地球環境等に調和した製品を提供し、社会の発展に貢献します。

## 2. 環境方針

（株）谷田部銘板製作所は、企業理念の実現に向けた事業活動を展開し、社会の持続的発展を可能とする健全な環境を次世代に引き継ぐため「ますます深刻化する地球温暖化への対応や、我が国のエネルギー供給体制の現状」を最重要課題と認識し、資源、エネルギーの節約と環境汚染防止に努めます。

（1）二酸化炭素排出量の削減

（2）廃棄物排出量の削減

（3）水使用量の削減

（4）環境教育の実施

（5）化学物質の管理を徹底し、使用状況、在庫の管理と削減に努めます。

（6）環境関連法規、条例及びその他の規制を遵守します。

これらについて、環境目標・環境活動計画を定め、定期的見直しを行い継続的に改善に努め企業責任を果たします。

2023 年 10 月 1 日

株式会社　谷田部銘板製作所

代表取締役　谷田部　剛

# １．会社概要

## （1）対象組織

事業者名:株式会社　谷田部銘板製作所
所在地:
・本社:〒174-0052　東京都板橋区蓮沼町74－2
・野方工場:〒165-0027　東京都中野区野方2-34-19
会社設立:1941 年
資本金:1,000万円
代表取締役:谷田部　剛
環境管理責任者:箕崎　徹
連絡先: Tel:03-5916-3561 Fax:03-5916-3555

## （2）事業内容

銘板・ネームプレートの製造・販売

## （3）事業規模

・床面積:
・本社: 202 ㎡
・野方工場　70㎡
・従業員数　計19 人
・本社:16人
・野方工場:3人
・売上257百万円（2022年度）
・主な機械設備
平圧式シール印刷機 恩田製作所 1 台
25t プレス アマダプレステック 1 台
カラーレーザープリンター ゼロックス 2 台
インクジェットプリンター エプソン 1 台
UV インクジェットプリンター ミマキエンジニアリング 1 台
ラミネーター 日本GBC 1 台
カッティングプロッタ ミマキエンジニアリング 3 台
アルマイト印刷設備一式（アルマイト槽・現像機・研磨機）

## ２． 実施体制

# 株式会社 谷田部銘板製作所
# エコアクション 21 実施体制

**経営者**
代表取締役　谷田部剛

- 環境管理責任者の任命
- 環境方針の作成
- 人員・設備・費用の準備
- 代表者による全体の評価と見直しの実施
- 経営における課題とチャンスの明確化

**環境管理責任者**
箕崎　徹

- 環境目標の策定とフィードバック
- 環境レポートの作成
- 社員への環境教育
- 取組項目（電気使用量等）の数値の取りまとめ
- 苦情の受付と対処

**営業部 部門責任者**
大脇　拓也

- 環境関連法規の取りまとめと遵守状況の確認
- エコドライブの奨励
- 外部の環境関連講習会への定期的な参加
- 製品含有化学物質調査のとりまとめ

**営業事務 責任者**
谷田部　祐子

- 電気・ガス・水道・ガソリン等、購入伝票の保管
- 事務所内、不要電気の消灯の確認
- 事務所内、エアコン室内温度の確認
- 節水の確認

**製造部 部門責任者**
船岡　義正

- 使用しない機械設備、パソコンの電源チェック
- 製造現場内、エアコン室内温度の確認
- 化学物質の購入記録の管理と保管状況の確認
- リサイクル可能廃棄物排出量の記録
- 在庫管理の徹底と不良品の削減

**野方工場　責任者**
箕崎　徹　（兼務）

- 野方工場の電気・ガス・水使用量の把握
- 化学物質の使用状況の確認

（2023 年 6 月1日現在）

## ３. 対象範囲等

### （1）対象範囲

株式会社谷田部銘板製作所のすべての事業活動

### (2)レポートの対象期間

対象期間:2022年11月1日～2023年10月31日の1年間

・エコアクション21の活動開始年月日:2011年5月1日

・目標の基準年度は、2020年度:2020年11月1日～2021年10月31日

## ４．環境目標

本レポート期間中 2023 年 4 月より、外部委託していたアルマイト印刷工場を購入し自社の野方工場として引き継いだ関係で、売上高および、電気・ガス・ガソリン・水の使用量が大幅に変化した。そのため、全社として前回の環境レポートで設定した目標の年次比較が困難となった。

上記の理由から、今回の 2022 年度分と次回 2023 年度分は、本社と野方工場を分けて考え、目標を設定する。

本社分については前回の環境レポートで設定した目標との比較を継続する。ただし、売上高については本社分と野方工場分に分けることが困難なため、売上高に基づく原単位比較が困難となった。そのため、次回 2023 年度分までは原単位での比較をやめ、総量値での実績比較のみとする。

野方工場分については、今回の 2022 年度分（6 月～10 月）と次回 2023 年度分は実績把握を目標とする。2024 年度分から野方工場分においても数値目標の設定が可能なため、全社として総量値と原単位での比較を再開することとする。

### （1）二酸化炭素排出量の削減

**【本社分】**

電気使用量を環境目標に掲げた。取組は基準年度2020年度（2020年11月1日～2021年10月31日）】との年間の使用量の比較である。削減の目標は、基準年の現状維持とする。中期目標も3年後、基準年の現状維持とする。先述の理由より原単位での比較をやめ、総量値での比較とする。

ガソリン使用量は、野方工場が出来たことにより、本社と野方工場の毎日の往復と自社便での配達が増えるので増加することは明白である。よって、昨年の環境レポートで定めた削減目標は達成できないので、本レポートでは実績把握を目標とする。なお、ガソリン使用量については、本社分と野方工場分に分けることが困難なため、全数を本社分とする。

ガス使用量については本社では製造工程で使用しないためごく少量である。そのため、昨年定めた現状維持の目標を継続する。

**【野方工場分】**

野方工場分については、電気使用量とガス使用量の実績値把握を目標とする。次回、2023年分まで実績値は把握し、2024年度以降、削減目標を数値化する予定である。

### （2）廃棄物排出量の削減

**【本社分】**

廃棄物の排出量は、多くが事務用の紙ごみである。これらは事業系一般廃棄物として処理しており、これらは二酸化炭素排出量と同様の削減目標を掲げた。

今後も引き続き、作業方法の改善による不良品の削減と、設計段階による材料取りの改善

による金属材料の削減に努力していく。

二酸化炭素排出量同様、野方工場引継ぎにより売上高が増えたため、原単位での比較はいったん取りやめる。総量値で基準となる 2020 年度の現状維持を目標とする。

**【野方工場分】**

野方工場ではアルマイト工程のみのため、事業系一般廃棄物はごく少量であるため、一般廃棄物は本社分と合算で計算する。

産業廃棄物は年1回11月にスラッジの回収がある。本レポート期間中にはスラッジの回収は無かったので記載しないが、次回2023年度分のレポートより実績値を把握し、掲載する予定である。

## (3)水使用量の削減

**【本社分】**

水使用量は、二酸化炭素排出量と同様の削減目標とした。節水意識の向上や日常の管理の徹底を目標とした。他の指標と合わせるため原単位での比較をいったん取りやめ、総量値での比較を実施した。

**【野方工場分】**

アルマイト工程で水を使用するため、今後は重要な指標となる。そのため、本レポート2022年度分と次回2023年度分は実績の把握を目的として、2024年度以降、削減目標を決める予定である。

## (4)環境教育とその他の環境目標 【全社共通】

**①研修会への参加と情報収集**

外部の研修会がある際は参加し、メルマガなど顧客から環境に関する情報が送られた際は、世界的な環境規制の内容を確認し、環境調査の準備を行う

**②化学物質の情報収集**

ユーザーから使用材料の環境調査依頼が多く、その大部分は「chemSHERPA」提出を要求されている。そのため、「chemSHERPA」のアップデートが行われる際は、使用材料の最新の「chemSHERPA」を材料メーカーに要求している。

**③化学物質の情報提供**

ユーザーから、使用材料の有害成分の照会が多く、「RoHS」、「REACH」指令などの不含有情報の提供や「chemSHERPA」の提出をしていく。

**④化学物質の管理**

野方工場で化学物質の使用が多く見込まれるため、化学物質の管理と使用状況の把握を行い、法・条例で定められた届け出不要な使用量の範囲内であることの確認を継続する。2023 年度まで実績把握に努め、2024 年度以降、削減に務める。

⑤環境関連法規、条例及びその他の規制内容等を定期的に点検し、遵守する。

## 【環境目標（数値目標のある本社分）】
## ＜総量値＞

| No | 数値項目 | 取組項目 | 基準年 2020 年度 | 2021 年度 目標 | 2022 年度 目標 | 2023 年度 中期目標 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 二酸化炭素排出量 | 電気使用量の削減(kWh/年) | 35,973 | 35,973 | 35,973 | 35,973 |
| | | ガソリン使用量の削減(L/年) | 631 | 631 | 631 | 631 |
| | | ※注 1　計 kg-CO2/年 | 18,290 | 18,290 | 18,290 | 18,290 |
| 2 | 一般廃棄物 | 一般廃棄物排出量の削減（t/年） | 3.14 | 3.14 | 3.14 | 3.14 |
| 3 | 金属くず（有価物） | 金属廃棄物排出量の削減（t/年） | 2.20 | 2.20 | 2.20 | 2.20 |
| 4 | 水使用量 | 節水（$m^3$/年） | 171 | 171 | 171 | 171 |

注 1：排出係数：2017 年度基準　0.462kg-CO2/kwh にて算出。

## 【環境目標（野方工場）】

旧外部委託先から事業を引き継いだ以降、可能な範囲で実績値を算出する。

# 5．環境活動計画と取組結果　（2022 年 11 月 1 日～2023 年 10 月 31 日の年間評価）

## 【達成実績（数値目標のある本社分）】
## ＜総量値＞

| No | 数値項目 | 取組項目 | 基準年 2020 年度 | 2022 年度 目標 | 2022 年度 実　績 | 評　価 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 二酸化炭素排出量 | 電気使用量の削減(kWh/年) | 35,973 | 35,973 | 37,214 | × |
| | | ガソリン使用量の削減(L/年) | 631 | 631 | 620 注 2 | ◎ |
| | | ※注 1　計 kg-CO2/年 | 18,290 | 18,290 | 18,258 注 3 | ◎ |
| 2 | 一般廃棄物 | 一般廃棄物排出量の削減（t/年） | 3.14 | 3.14 | 3.58 | × |
| 3 | 金属くず（有価物） | 金属廃棄物排出量の削減（t/年） | 2.20 | 2.20 | 2.19 | ◎ |
| 4 | 水使用量 | 節水（$m^3$/年） | 171 | 171 | 169 | ◎ |

注：評価 《◎：目標を達成　　×：目標未達成　ー：比較困難）》

※注 1　都市ガスを含む総量である
※注 2　想定本社分
※注 3　ガソリン使用量想定分より算出

## 【実績把握（野方工場分）】

| No | 数値項目 | 取組項目 | 2022 年度<br>実績 |
|---|---|---|---|
| 1 | 二酸化炭素排出量 | 電気使用量(kWh/年) | 14,387 ※注 1 |
| | | ガス使用量(㎥/年) | 838 ※注 2 |
| | | 計 kg-CO2/年 | 8,241 ※注 3 |
| 2 | 水使用量 | 水使用量（$m^3$/年） | 1,099 ※注 4 |

注 1： 2023 年 6 月～2023 年 10 月の実績
注 2： 2023 年 5 月～2023 年 10 月の実績
注 3： 2023 年 5 月はガスのみ、2023 年 6 月～10 月は電気とガスより算出
注 4： 2023 年 5 月～2023 年 10 月の実績

## 【取組結果と評価】（※四半期ごとの評価）

| No | 環境目標 | 取組項目 | 具体的事項 | 業務担当 | 取組経過 | 評価1Q | 評価2Q | 評価3Q | 評価4Q |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 二酸化炭素排出量削減 | 電気使用量の削減 | 不要な電気の消灯 | 全　員 | 東日本大震災後の不要な電気を消灯する習慣は続いている。 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | | | 使用しない機械設備とパソコンの電源オフ | 全　員 | 東日本大震災後の使用しない機械設備とパソコンの電源を切る習慣は続いている。 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | | | エアコン室温の遵守<br>冷房２５度、暖房２０度 | 全　員 | ある程度浸透した。さらに努力が必要である。 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | | ガソリン使用量の削減 | 配送ルートの効率化 | 営業担当 | なるべく最短距離になるように努めた。宅配便を増加した。 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | | | 急発進・急停車の回避 | 営業担当 | エコドライブを実施できた。 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | | | 車両の定期点検 | 営業担当 | ディーラーの協力があり実施している。 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 2 | 廃棄物排出量削減 | 廃棄物排出量の削減 | コピー用紙裏紙使用の徹底 | 営業担当 | 裏紙使用はかなり浸透している。 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | | | 簡易包装と段ボールの再利用 | 営業担当 | 簡易包装と段ボールの再利用は実施している。 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | | | 金属廃棄物排出量の削減 | 製造担当<br>営業担当 | ・不良品を削減する。<br>・材料取りの改善による金属材料を削減する。 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 3 | 水使用量の削減 | 節　　水 | 節水意識の向上 | 環境管理責任者 | 節水意識は一定の効果あり | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | | | 蛇口緩み漏水チェック | 環境管理責任者 | 定期的にチェックしている | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 4 | 環境教育とその他の環境目標 | 研修会への参加と情報収集 | 外部研修会がある場合は参加、メルマガ等で情報収集をする | 環境管理責任者 | 外部研修会の実施は無かったが、顧客からのメルマガ等で情報収集は行った | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | | 化学物質の情報提供 | 使用材料の化学物質の情報を収集し提供 | 営業担当 | chemSHERPA 等のアップデートを行い、顧客からの要求に対応できた。 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | | 化学物質の管理 | 化学物質の管理 | 製造担当<br>野方工場 | 使用化学物質の管理と使用状況の確認をする | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | | 環境関連法規の点検 | 関係法律・条例の適合状況の点検 | 環境管理責任者 | 問題なし | ○ | ○ | ○ | ○ |

注：（○：達成　　×：達成できなかった）
一部実行できなかった場合でも、目標達成に影響がないと環境管理責任者が判断できる場合は「○」とする。

## 【取組結果の評価と次年度以降の取組活動】

（1）　二酸化炭素排出量の削減

本社分の電気使用量は目標の 2020 年度の現状維持という目標を達成できなかった。その理由は受注量の増加に伴う稼働時間の増加であると考えている。ただ、前年度比では削減できた。受注量増加にも関わらず削減出来た理由は、製造工程の効率化を進めて、残業時間の削減した結果と考えている。

野方工場について、電気使用量とガス使用量の把握をする目標は達成できた。次回 2023 年度までの野方工場については引き続き実績数値の把握を目標とし、2024 年度以降、削減目標を定める。

また、ガソリン使用量は増加したが、これは野方工場ができたことにより、毎日、本社と野方工場を往復し、かつ、アルマイト製品の配達も週 3 回行ったことが主な要因と考えている。配送ルートの見直しを行っているが、そもそも週 3 回の配達を減らすことができないか、顧客と交渉することも選択肢の一つと考える。

（2）　廃棄物排出量の削減

一般廃棄物の排出量は増加してしまった。引き続きの受注増により、検査シート等、紙の資料の増加が続いていることが要因と考えられる。また、野方工場の一般廃棄物を本社で排出しているので、その分が全体の増加につながったと考えている。

アルミニウム等（有価物）排出量は減少した。受注増に関わらず排出量が減少した。その要因は不良品の削減と歩留まりの向上が考えられる。同材料の注文をなるべく 1 つの材料にまとめて製造する試みは以前から行っておりその効果が出たと考えられる。

野方工場については、産業廃棄物の数値把握を行う。毎年 11 月にスラッジの回収を行っているので、本レポート期間中の回収は無かった。次回レポートより実績値を掲載する。

（3）　水使用量の削減

本社の水使用量は前年度より減少し、目標値も下回った。節水意識は浸透している。

野方工場については、2023 年 5～10 月の水使用量の把握は出来た。2023 年度も使用量の把握を続けることを目標とする。2024 年以降、削減目標を決める。

（4）　環境教育とその他の目標

製品含有の化学物質調査の依頼が年々増えている。RoHS、Reach などの規制に加え様々な規制があり、chemSHERPA の提出が一般的になっている。そのため、使用している材料の chemSHERPA をメーカーに依頼して、顧客からの環境情報の開示要求にタイムリーに対応することが求められている。本レポート期間中の顧客からの環境調査は約 3,000 件あったが、すべて適切に回答するができた。

化学物質の使用量は野方工場の方で多くなるので、まずは、種類・使用量の把握を進めていく。本レポート期間中に把握は出来た。

環境関連法規、条例及びその他の規制内容等について不適合の状況はない。今後、継続的に点検し、遵守する。

## ６．適用される法令と遵守状況等

**【適用される主な法令】**

| 法律･条例名 | 適　用　項　目 | 遵　守　状　況 |
|---|---|---|
| 騒音規制法 | 特定施設の届出、規制基準の遵守 | 2003 年設置届済 |
| 振動規制法 | 特定施設の届出、規制基準の遵守 | 2003 年設置届済 |
| 東京都環境確保条例 | 工場認可申請、規制基準の遵守 | 本社：2003 年工場認可、規制基準遵守、氏名等変更済<br>野方：2023 年　承継 |
| 東京都下水道条例 | 氏名変更・承継・廃止等 | 野方：2023 年　承継 |
| 廃棄物処理法 | 事業系一般廃棄物の処理<br>産業廃棄物の処理 | 適正処理<br>マニフェスト発行 |
| フロン排出抑制法 | フロン使用機器の定期点検 | 3 か月毎の簡易点検を実施 |

**【遵守状況等】**

環境関連法規への違反はありません。なお、関係当局より違反等の指摘又は環境に関する苦情は、過去 3 年以上ありません。(2023 年 10 月1日確認)

※野方工場については、別途 2023 年 11 月 1 日付にて本社と野方工場両方の「環境関連法規の取りまとめと遵守評価の確認」として作成している。

野方工場でのフロン使用機器(エアコン)の定期的な点検は 2023 年 11 月から開始する。

## ７．代表者による全体の見直し

・二酸化炭素排出量は、基準年(2020 年度)に比べ、絶対量は増加してしまっている。ただし、本社分の電気使用量については、前年度より減少している。

受注量は増加しているが電気使用量の減少につながった要因は生産効率を上げ、残業時間の削減ができたからと考えている。

ガソリン使用量は野方工場ができたことで全社分として増えているが、今後も使用量の把握に努め、2024 年度以降、削減目標を定める。

・廃棄物排出量は、基準年を上回ってしまったが、野方工場での廃棄物が増えたことが要因であると考える。来年度までは引き続き排出量の把握を続け、2024 年度以降、削減目標を定める。

アルミニウム等(有価物)排出量は削減できた。受注量の増加にもかかわらず減少できた理由は製造部員たちが効率的な製造を心がけた結果であると思われる。今後も、「不良品の削減」や「材料取りの改善」による金属材料の削減努力を実施する。

産業廃棄物の排出は主に野方工場で発生する。毎年 1 回 11 月にスラッジの回収を行う。次年度は排出量の把握をして、2024 年度以降、削減目標を定める。

・水使用量について、本社分については削減できた。節水意識が浸透したと思われる。水使用量は野方工場の方が圧倒的に多いので、次年度まで使用量の把握に努め、2024 年度以降、削減目標を定める。

・化学物質の使用量は少量であるが継続して、管理の徹底と削減の努力を行う。野方工場での化学物質の使用量の把握も継続していく。

・顧客からのRoSH･REACH指令に基づく情報の照会は継続し、積極的に提供を対応し、提供実績を公表していく。現状、ほとんどの含有化学物質調査に対し、期限内に回答が出来てい

るので、今後も、化学物質資料の管理を徹底し、迅速に回答できる体制を続けていく。

今回のレポートでは、野方工場引継ぎという大きな変化があった。今までの体制との環境付加の比較が難しいので、次年度まで、野方工場は実績数値の把握を続け、2024 年以降、本社と野方工場を合算した削減目標を定める予定である。

※次回の環境経営レポートは、令和 6 年 12 月頃作成予定。